

No.2861

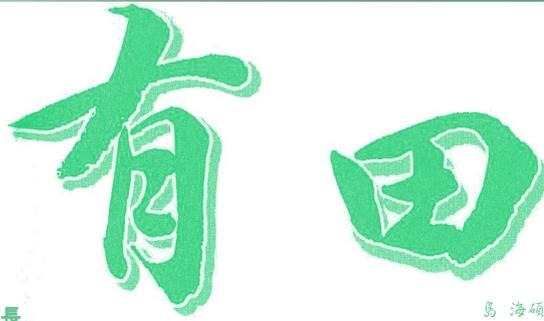
2017-2018年度

会長 成川 守彦

幹事 橋本 拓也

R広報委員長 應地 正章

担当：上野山(栄)副委員長



島海碩書

第2640地区
 例会日 毎週木曜日 12:30
 例会場 紀州有田商工会議所6F
 〒649-0304
 有田市箕島33-1
 紀州有田商工会議所2F
 有田ロータリークラブ
 Tel (0737) 82-3128
 Fax (0737) 82-1020
 創立 昭和34年6月15日
 ホームページ <http://www.aridarc.jp>
 e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



本日のプログラム

平成30年3月1日 第2862回

- ・会員卓話：岩橋 行伸 君
岩本 道弘 君
- ・ソング：「君が代」「奉仕の理想」

前回の報告（第2861回例会）

開催日 平成30年2月22日(木)

点鐘 (成川(守)会長)

ゲストの紹介 (上野山(捷)親睦活動委員長)

米山奨学生:董 涛 君

米山奨学金授与



2月分の奨学金が成川(守)会長より、董涛君に授与されました。

ニコニコ箱の報告 (川口副SAA)

成川(守)君:IDMの出席、ありがとうございます。本日の箕島中学校の中国紹介授業、董涛君、ご苦労さまです。会員の皆様、ご参加をお願い致します。

橋本君:中元さん、酒井さん、後期IDMの発表、よろしくお願いします。見島さん、本日はお世話になりました。

松村君:IDMの発表、よろしくお願いします。董涛君の中国紹介授業、楽しみです。

見島君:IDMの発表、ご苦労様です。本日、職場訪問ありがとうございました。

脇村君:各リーダーさん、IDMの発表よろしくお願いします。

岩本君:来週の例会にはJAの部会の為、早退させて頂き

2017-2018年度クラブ方針

ロータリーを知ろう

～温故知新～

次回のお知らせ

平成30年3月8日 第2863回

- ・会員卓話：丸山 芳孝 君「イニシエーションスピーチ ～歩んできた時代をふり返りながら～」
- ・ソング：「それでこそロータリー」



ます。

嶋田(崇)君:IDMの発表、各リーダーさん、御苦労さまです。

石垣(泰)君:2月10日のRC新会員地区研修会も自己確認出来る楽しい会議でした。2月15日のIDMの集いも本当に楽しませていただきました。

橋爪(誠)君:後期IDM発表、ごころう様です。勉強させて頂きます。社会・青少年奉仕委員会様、本日の事業、ごころう様です。

上野山(栄)君:先週はIDM、皆様お疲れ様でした。本日、発表よろしくお願ひします。

上野山(捷)君:IDMの発表、ご苦労さまです。

井上君:IDM、みな様、おつかれ様でした。

酒井君:本日、IDMの発表をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

宮井君:後期IDM発表、よろしくお願ひします。

中元君:本日、IDM発表させていただきます。

川口君:2月10日の新会員地区研修会の講師、成川会長、上野山英樹さん、おつかれさまでした。本日の後期IDMの発表、当日欠席して申し訳ございませんでした。宜しくお願ひ致します。

出席報告 (井上例会運営委員)

本日の会員数32名

(出席規定免除会員9名)

出席会員数24名

(出規定免除会員8名)

77.42%

2/1 83.87%

MU:なし

会長の時間

(成川(守)会長)

明日は、ロータリー誕生の日であります。今日は、ロータリー創立記念のネクタイをしめています。(右写真)ロータリーの誕生については、1日の会長の時間で話しました。



今日は、1910年から32年間、国際ロータリーの事務総長を務めたチェスリー R.ペリーが、1947年のサンフランシスコ大会で、1947年(昭和22年)1月27日(月曜)78歳で逝去した国際ロータリーの初代会長ポール P. ハリスに対する謝辞を紹介します。

この大会にはある人物が見当たりません。いつもであれば、よりよき世界を求める祈りのメッセージを、私たちにいつも送ってくれたはずですが、でもその人がいないことで当人からの、私たちに向かって書かれたメッセージはここにはないのです。

76年前、彼の祖父母のそばで若き持代を過ごすために、ウィスコンシン州、ラシーンで生まれた幼いアメリカの少年は、バーモント州、ウォリングフォードの小さな町に着きました。ブルーベリーとそば粉のパンケーキ、キリスト教のバイブル、会衆派教会の教義、エマソンとソローの著書およびニューイングランドバレーの思いやりの環境を得て育てられたのです。

そこで、更に高い教育を求めたいという思いからバーモント州、ラトランドや、バーリントンへ、ニュージャージー州、プリンストンへ、更にアイオワ州、アイオワシティに転居するまで、彼はそこに留まりました。また、それから、法律学の学位を取得した後、5年間に渡る旅行をし、めぐり合った全ての職業に取組みました。その職業は、新聞記者、教師、ホテルフロント、レパトリーシアターの役者、カウボーイ、果物の摘み手、セールスマンといったものでした。彼の旅行とそこでの経験、特にヨーロッパの国々への3回の訪問の中で、感性鋭い活気ある心を広げ、同胞への関心を深めました。

ニューイングランドバレーでの生い立ち、学識そして旅行での経験を背景に、1896年、ポール P. ハリスは、その後51年間ホームグラウンドとなったシカゴという精力的、喧騒の都市で、弁護士業務を開始しました。

しかし、この若者の心は、彼が今まで自分で見、経験したものであまりにも溢れ過ぎており、法律上の奉仕のため、時代の需要に十分に応ずるよう自分を許容できませんでした。犯罪擁護、事業金融の取り扱い、政治の魑魅魍魎など、彼にとって魅力はほとんどなかったのです。クライアントは賢くて如才ない弁護士と評価して、彼のもとにやって来てはいませんでした。彼は説得力ある話し手とはいえず、富のために大きな野心もありませんでした。それよりも、人間社会のよりよい状態を見たかったのです。

彼は、不振苦闘している弁護士として、クライアントを必要とすることを理解しました。しかし、それ以上に、友達や仲間が必要でした。その人たちは容易に見つかりませんでした。ハリス氏は、礼拝場で、都市の公園で、そして海岸で友人を見つけようと、また、田舎へハイキングにも行きました。これらの活動のなかで、後に妻になったジーン・トムソンに会います。ポールにとって、愛しいジーン以上に、誠実で、献身的で、親身に力になってくれる人はいませんでした。

郊外の地域への訪れは、小さな町の特質のうちの幾つかとともに、ポール氏に、親睦組織に対するあるアイデアを与えま

す。その組織は都市の中心部にあって、友を持ちたい、友になりたいと思う彼自身のような人の輪の中にあるというものでした。

シルヴェスター・シール(2月23日参加)、ハリー・ラグルズ(3月9日参加)、チャーリー・ニュートン(3月23日参加)(注:3人は3月23日のメンバーですが、2月23日創立会員4人のうち、ハイラム・ショーレーは5回出席しただけ。ガスターバス・ロアも健康状態が悪化して早期に退会)等の助けを借りて1905年にクラブを作ります。そのクラブは、ビジネス的方面で互いに役立つつも、ただそれだけでなく、とりわけ心からの友となれる、様々な職業の人から構成されていました。



彼の共同創立者達、特にハリー・ラグルズはクラブを成功させるために熱心に参加し、活動しました。メンバーは連帯感を楽しみ、互いに支援することに満足を見出しました。しかしながら、ビジネス的方面で互いに役立つなら、大いに正直で役に立つ準備ができていなければならないと理解していました。そして更にクラブ会員外の人々にも思慮深く、有益であるべきとも認識していたのです。したがって、彼らは奉仕を受けるよりも奉仕することにより大きな喜びを見出しました。

クラブが成長し繁栄するとともに、ポール P. ハリスは他の大都市にも、クラブの着想を通用させようと思い始めました。そこでは、親睦と相互扶助に引き付けられる人々がいるに違いないと感じたのです。私たちの何人かは、初めは彼のビジョンを共有できませんでした。しかし、彼はその姿勢を貫いたのです。

ポールが第2のクラブをサンフランシスコで始めた後、シカゴ・クラブの他のメンバーは、拡大増強の考えに興味を持つようになり、他の都市でのクラブ擁立のためポールに協力しました。幾つかのクラブができたとき、ポールはある方法で、それらクラブを一体にしようと思い立ちます。

周りの支援によって、彼は1910年、シカゴに全米連合会を設立しました。その後、ロータリー活動は確実に広がり始めました。ポール P. ハリスの2年の会長職の下で、ロータリークラブは、アメリカ合衆国だけでなくカナダおよびイギリスにも設立されました。そして、この創立者は、あの旅行中に訪れたヨーロッパの首都群、さらに他の国々にもクラブ設立を夢見ていたのです。

ポール会長は、さらにこの活動の哲学もしくは解釈の進化発展を考え始めました。ダルースでの第3回大会で彼の刺激的演説は、ロータリーの潜在力の実現に向けて私たち全てを奮起させました。そこでは、「名誉会長」の肩書きが大会措置により、彼に授けられたのです。

不運にも、その大会後、ポールは、長きに渡って病を得ます。その病気は彼の死まで、程度の差こそありながら、完治しませんでした。長い年月に渡り、この病気は彼に大会参加を遠ざけたのです。

しかし、彼は、ロータリアン誌へ有益な貢献をし、書簡を送り、訪れるロータリアンと話し合い、そして時にはクラブを訪れました。更に、ロータリープログラムの開発進化において、各進捗段階での重要性に常に注意を払っていました。居丈高に指示しようせず、役に立つよう助言し援助しました。彼に接した人全てはロータリー活動において力を得、彼の持つロータリアンの世界的連帯感ビジョンによって刺激を受けたのです。

彼は1930年、シカゴの25周年祝典大会で満場の歓迎を受けました。どうにか、彼の健康がさしつかえないと思われた時、世界のあらゆる地域のロータリークラブを訪れてほしいという、国際委員会の要請に応じることにしました。身体的に、それは彼にとって困難を極める旅行でした。しかし、時には妻を同伴して

時には一人で、果敢に実行しました。どこへ出向いても、ロータリーのため、ロータリー活動の国際性のために多くの友達を作りました。そして、それは、ほんの短い言葉で表せば、彼が起こした活動、育成支援した人達の沿革といえます。

数か月前に、私たちは、シカゴの墓所で永久の眠りにつくためポール P. ハリスの申し分なく活躍したその体を安置しました。私たちから彼が去ってしまったことに、深い悲しみを覚えます。しかし、一方私たちの記憶の中に彼は今も生きており、さらにこれからも生き続けることに幸せを感じるのです。

ロータリー活動、すなわち偉大な啓蒙的活動の成長と発展に貢献をした何百人、いや何千人ものメンバーの間でもとりわけ優れ、オリジナルの考えを創造し、もともと謙虚で、親切、親しみある人、ポール P. ハリス。彼のロータリー活動に占める位置に関して論ずるに、いまさら私たちの間に何の異議もあり得ません。最初のロータリークラブを設立し、第2のクラブの成立を思いつき、かつて活動の拡大を説いた人。全クラブの大会の成立をもたらし、最初の3つの大会で強力な推進力を与えた人。病氣と戦い、活動への関心を失わず、継続的な成長への価値のある貢献をする能力を持ち続けた人。そして身体的状況が本分を尽くす余地のある限り、ロータリーでの務めの要請を断わらなかった人。今日、私たちは過去の彼の姿、彼の活動、彼が私達に残した示唆に敬意を表します。

今日ここに世界中から集まった人たちがいます。その人たちは、亡くなった私達のリーダーについて、更に世界の各地域にとって彼が意味するものを喜んで詳らかに話そうとしています。ヘドケ会長よびラッセル議長は、この機会に簡潔な卓話を依頼した6人のロータリアンを紹介することを私に要請しました。最初のスピーカーとして、中国上海ロータリークラブ、W.H.タン氏の名をご披露できることは私のこの上ない喜びです。

(拍手)

翻訳 津坂 守英@名古屋城北RC

話は替わりまして、皆様、我々は、ロータリーの例会や地区の会議で、「奉仕の理想」を歌いますが、この歌の誕生についてご存知ですか？

奉仕の理想に集いし友よ **御国に捧げん** 我らの業
望むは世界の久遠の平和 めぐる歯車いや輝きて
永久に栄えよ 我らのロータリー

会員の皆様は、「奉仕の理想」を歌う時、「御国に捧げん・・・」の部分はどう感じて歌っておりましたか？何にも感じませんでした？私は、ロータリーに入会したときから違和感を持って歌っていました。

ガバナー年度(1999-2000)の前年、ある地区のガバナー月信で、次のことを知り調べましたので紹介します。1920年(大正9年)10月20日東京に始めてRCが創立され、続いて、大阪、神戸、名古屋、京都、横浜、朝鮮の京城、広島、大連、奉天、ハルピン、台北RCと設立され、1931年(昭和6年)には、11RCの拡大発展となりました。この頃は、例会で歌うソングはすべて英語の歌詞であった。そこで日本語によるロータリーソング作製の要望が強くなり、昭和5年神戸にて開催された第2回地区大会において、奉天RCの提案による「日本語によるロータリーソングを作ること」が採択されました。

1935年(昭和10年)第7回地区大会が京都で開催され、募集した新作の「日本語によるロータリーソング」の発表があり当選者に対し賞品が授与されました。

- 第1位:「旅は道づれ」
- 第2位:「奉仕の理想」
- 第3位:「平和を人の世に植え」
- 第4位:「我等の生業」

第1位に当選した作品は作曲で一部に盗作があったので失格になり、「奉仕の理想」が第1位に繰り上げ当選となりました。作詞:前田和一郎氏(京都RC)、作曲:萩原英一氏(東京RC)

作詞者の前田和一郎氏は京都RCの会員で、国際派の活動的なロータリアンであり、応募した「奉仕の理想」の原詞は、「奉仕の理想に 集いし友よ **世界に捧げん** 我等の業・・・」であったのです。

当時のガバナーは第3代:村田 省蔵氏で国粹主義者として著名な方で、愛国心が特に強く、新ソングの選考に当たり「奉仕の理想」の歌詞の中で「世界に捧げん」を「御国に捧げん」と変えなければ、当選は無効という通達を出したそうです。前田氏は涙を吞んで変更を承認しましたが、後年逝去する臨終の際に親しい友人を呼び、「若し出来る事なら何時の日にか原詞の「世界に捧げん」に戻して頂ければ有難い」が遺言であったといわれています。

私が京都RCに尋ねましたところ、「この歌は今や日本のロータリー共通の財産であるから、京都クラブが歌詞の変更などについて決定する筋合いのものではない。クラブ・地区の判断でどちらでも好きに歌われては」というお考えでした。

皆様! 「奉仕の理想」を歌う時、「世界」の方がよいと思われる方は「世界」と、「御国」の方がよいと思われる方は「御国」と歌ってください。

幹事報告 (橋本幹事)

1. 米山記念奨学生修了式&歓送会の案内が届いています。3月21日ホテルグランヴィアで行われます。参加される方は事務局まで連絡下さい。
2. 地区から、トロント国際大会の案内が届いています。白板に掲示しています。
3. 有田医師会より70周年記念史「阿提2017」が届いています。
4. 他クラブから例会変更のお知らせが届いています。

委員会報告

- * 社会・青少年奉仕委員会(井上委員長)
本日、箕島中学校で董涛君による「中国紹介授業」があります。皆さん、参加よろしくお願ひします。
- * 米山記念奨学委員会(松村委員長)
本日、中元耕一郎君から特別寄付をいただきました。
- * R財団委員会(酒井委員長)
中元耕一郎君より、特別寄付がありました。
- * 例会運営委員会(橋爪(誠)委員長)
本日記布の週報最終ページ「3月例会プログラム」 3/8と3/29の卓話者交代です。

後期 I DMの発表

「ロータリーができる地域課題に向けた事業とは」



第1班リーダー
中元 耕一郎 君

○第1班

日時:平成30年2月15日(木) 午後6時30分～

場所:橋家

参加者15名:リーダー:中元耕一郎、サブリーダー:橋爪誠治、情報研修:中村吉伸、次年度会長:上野山栄作、石垣泰伸、井上修平、丸山芳孝、宮井清明、上野山捷身、江川真史、田端正巳、岩本道弘、橋本拓也、橋爪正芳、上野山英樹

1、会長エレクトからの主旨説明

「次年度、自分が会長をやらしていただくことに決まっているが、そこで自分らしいことが何かできたらいいなと考えている。私は今、地域にもう一度着目することが重要と考えている。地域があつてこそその自分たちであるので、地域に貢献できる事業をさがして行きたい。普段皆さんが考えられている地域問題点や、それに対しどんな問題解決の方法があるのか聞きたい。今後、我われの地域も人口減少が避けられない状況にあるが、そんな中でも若い人たちが面白いと見え、住んでみたいと思ってもらうには、小さなことから何か動かして行けば大きなことに繋がって行くものと考えている。そこで、地域の方々に何かインスピレーションを与えられるような良いアイデアがあればお聞かせ願いたい。次年度の事業の参考にもさせていただきます。」

2、意見内容

- 教育、就労、医療問題のいずれも都会に比べ劣っている。医療面では特に小児を含めた救急医療と産科医療が危機的な状況である。日夜、解決方法を考えているが、なかなか難しいのが現実である。
- 若い人が魅力を感じないし、子供が産めない、子育てできない、若い人が都会に出て行き見放されつつある地域であると感じている。また一方で、町おこしをしていると、ここで起業をしてみたい、まだまだ魅力的な地域と言ってくれる若い人もある。住宅面、医療面を含め、もう少し若い人が働きやすく暮らしやすい、また人にやさしく、子供に温かい、子育てしやすい町を作ることができれば、魅力のある地域になるのではないかと考える。最近一次産業である農業を志す若い人も出てきている。農業は労働がきつく働き手を探すのは困難と思われるが、難しいと思っていることも、

アプローチし行動を起こせば動き出すかもしれない。そして古い慣例・しがらみに囚われないよう、若い人たちが自由に働きやすい環境を整えてやることも重要と考える。

- 就職先がない。あつても暮らすだけの経済力を生む場が少ない。そのため、若い人が都会に流れてしまっている。また、教育的な問題も大きい。この有田地域の人々は案外この地域の歴史について知らない。私は有田の歴史についての本を発行しこの問題に取り組んでいる。ロータリーの活動として、継続事業はやめた方が良く考える。単年度事業が適切と考える。次に受け継ぐ人が大変になってくる。ロータリークラブの活動としては、トウトウ君が今度箕島中学校へ行って中国を紹介するような青少年事業が適しているのではないかと考える。
- 地元の高校を卒業して大阪や東京に出て行って、いろんなことを勉強し、いろんなスキルを身につけた人が、なかなか有田に戻ってきてくれない。そういう方が戻ってきてくれると新たな発想が生まれるのではないかと考える。子供の頃から、大学を卒業して和歌山に戻って就職してもらえるような教育が大事と考える。また、奨学金制度など大学を卒業してから和歌山に戻ってきてもらうような仕掛けがないのも課題である。
- 人口減少は有田だけの問題ではなく全国的な問題である。若い人の就職の場がない。若い人が都会に出て行ってしまい、戻ってこない。この有田は海、山、川の自然に恵まれた日本でも有数の地域である。もう一度、有田の良い点を認識する必要がある。ロータリーでも地の島の清掃等の活動を行っている。この自然に恵まれた地域をよりきれいにし、観光を整備し人を呼び、来てくれた観光客がこんなところに住みたいと感じられるようにすればよい。
- 有田から都会へ出て行った人たちが、今後定年を迎えた時に、地元に戻って住みたいと感じるかが問題である。都会に比べ交通機関など少なく、車がなければ移動しにくい。地元の人口が減ってきているので、住む家はあると思うが果たして戻って来たいと感じるだけの魅力があるかどうかが問題となる。
- 金融機関でも労働力の減少が課題となっている。若い人が都会へ出て行き、より大きな企業での就職を望む傾向にある。就職の内定をだしても別の企業へ行かれたりして、人手不足となっている。和歌山はもともと観光で発展してきたし、有田も特産物もあるので観光に力を入れ、人を呼ぶのが良いのではないかと考える。
- 地域に貢献できるような事業を行うことが重要である。かつては吉備高校の農産物品評会を行って、会長賞を出したりし地域から評価されていた。地域の人々から評価されるような事業を行うことが重要である。最近はそのような活動が少ないと感じている。
- 交通網の整備が重要である。道路事情が悪いため、高速道路が通っている有田川町に行く人が多くなってきている。道路が整備されると、企業誘致がしやすくなり人も増えると思われる。また、観光分野やみかんや太刀魚などの特産品を始めとし、有田市の魅力をテレビなどのメディアを使ってもっとPRする必要がある。

- 有田にもともとある魅力あるものを、もう一度チェックしなおすことが大事である。そこから始めることが大切と考える。新しいものを取り入れ、新たに何かを始めるのは少し困難ではないかと考える。
- 日常の生活をする上で、住みやすいかどうかを考慮することが重要である。私のところも交通の便が悪く、買い物に行くにも車を使わなければ買い出しに行けない。年齢を重ねると果たしていつまで買い出しに行けるか不安である。基本的に生活する上で交通の便も含め、住みやすいかどうか、魅力があるのかを考慮することが大事と思う。
- 有田は人が来ない、高速が通じてなく交通の便も悪い、観光、ショッピングの目玉もなく、あまり良いイメージではない。元気で優秀な子供、若者、青年が活躍できる場、活力を発揮してもらえるような形になれば良いのではないかと考えている。
- 魅力ある町にするためには、何よりも人が元気であることが重要である。元気が元気を呼ぶし、人が集まるコミュニティが元気であることが大事である。今後AIやフィンテック等の革新的技術の発展により、誰しもが不確定な将来に不安を覚えている。逆にそういう時がチャンスでもあり、人が動く時でもある。自分も昨年実施された地の島での活動に参加して、そこに栈橋がないことがわかった。実際に動くことによっていろんな問題点が見えてくる。歩みを止めず、いろんなコミュニティがお互いにコミュニケーションをとり、そして元気にお互いを刺激しあい活性化することが大事ではないかと考える。コミュニケーションの取れないところに発展はないと考える。
- 何かを動かそうとするとキーマンが必要となる。有田市にはそのキーマンが見えてこない。また不便でも人が面白ければ、人はそこに集まる。キーマン同士が繋がればまだまだ面白くなると思う。また案外、外から人が来て住む場所がありそうで実際には無いのが現状である。住む場所の提供やその情報提供も必要となる。そして、若い人に地元愛がないとなかなか帰って来てくれない。大学で外へ行く前に、子供の頃から地元のことに関わらずことが地元愛につながると考える。例えば、高校生にこの地域を活性化するためにはどんな方法があるのかを考えさせるような機会を設ける。なおかつ地域に関する子供たちに何かしてもらって成功体験をさせる。そうすることで、この地域も捨てたものじゃないと思うようになるかもしれないし、大学へ行っても地元のことを忘れないのではないかと考える。このような事業を60周年事業として、あるいはその他の事業として実施するのはどうだろうか。また、農業に関しても特徴がある農家さんのところには、他府県からも若い人がけっこう来ている。農業が好きな人が地元に入れ替わりくるようなきっかけを作る。農家さんに、こんな風にしたら、若い人が来るのだよと、教えるような事業も面白いのではないかと考える。
- 昨年度、中学校に行き職業紹介事業を行いました。今度はロータリアン以外の会社紹介も面白いのではないかと考える。有田市にはロータリアン以外にも面白い仕事をしている会社が結構あると思う。そういった会社の魅力

を子供たちに伝えてあげよう事業が良いのではないかと考える。そうしたら、子供たちも地元の会社に興味・関心をもってもらえるのではないかと考える。

3、60周年記念事業に関して

- 予算はあまり使えないかもしれないので、講演会をするならば、あまりビッグネームは呼べないかもしれない。
- 市民会館で講演会をすれば、定員の700名を集めるのは大変だ。講演会単独では困難かもしれない。何かを組み合わせる必要がある。
- 講演会の入場料は有料にすべきだ。
- 講演会の対象はどうなるのか？学生が対象か？われわれの世代か？若い女性か？
- 講演会は2019年5月頃を考えている(エレクト)。講演会の人集めに関しては、次年度の例会の卓話者として、前述のキーマンに入ってもらおうと考えている。同時にそのキーマンと一緒に活動をしている人にも例会に来てもらう。何回もそういうことを繰り返したり、また先の意見として出た活動などを織り交ぜたりして、その人たちが知り合っている地域の人々に動員をかけることも考えている。
- 私はJCや商工会議所、もちろんロータリーでも異業種と触れ合い自分を磨いてきたつもりだが、それをもって地元・地域に貢献していくやり方もあると思う。そういう貢献の仕方がロータリアンだと思う。

4、まとめ

人口減少等、我々の地域が抱える課題は多岐に渡り、しかもどれも難題ばかりで一筋縄では解決できない問題ばかりであることを改めて認識することができました。これらの難題し対して、我々ロータリアンが地域に貢献できることは、かなり限局されてくると思いますが、青少年を含めた若い世代への支援、教育等の必要性を訴える意見が多かったようです。その他、交通網の整備や観光に力を入れたらどうかとの意見も出ましたが、行政のやるべきこと、我われロータリアンが出来ることを明確にして活動することが重要であります。いずれにしても次年度は難しいテーマに取り組むことになるかもしれません。次年度会長の手腕を期待するとともに、我われ会員も頑張らねばと感じたIDMでした。



第2班リーダー
酒井 隆正 君

第2班

日時：平成30年2月16日（金） 午後6時30分～

場所：橘家

参加者9名：リーダー：酒井隆正、サブリーダー：木本隆昭、情報研修：脇村重徳、情報研修：児島良宗、次年度会長：上野山栄作、成川守彦、岩橋行伸、嶋田崇、松村秀一

1. 次年度会長より

2018年7月より会長をするにあたり地域に着目して考えていきたい。大きな課題である人口減の問題に対して小さなことから行動を起こして地域に役立っていきたい。そのような観点からご意見をいただき次年度計画の参考にしていきたいと考える。

2. 会員からの意見

- 最近の気象変動や異常気象で河川の増水や氾濫が危惧される。また南海地震の津波対策も重要である。津波や有田川氾濫に備えた地域防災への啓蒙に取り組み地域貢献ができないか？
- 毎年有田市は人口が400人程度減少しており活力が失われている。県外の観光客などが集まるよう地域の観光資源をもっと生かす取り組みができないか？
- 教育においても生徒数の減少で中学校に野球部がない事態が発生している。クラブを求めて遠方の中学に通う生徒が出ないようにするために何かできないか？
- 県外から転居してきたが有田市は交通マナーが悪い。歩行者優先で止まることもすくないと感じる。運転マナー向上になにか取り組むことができないか？
- 有田川町に比較して有田市は街を盛り上げるリーダーが少ない。相互交流でもっと有田川町にもノウハウを共有することはできないか？
- ロータリーの50周年モニュメントも認知度がいまいち。法被を作成して活動に利用するなどもっとPR活動に注力してはどうか？
- ミカン農家への体験など有田に住みたがる人は多いが空き家を有効活用していない。もっと空き家を有効活用できないか？湯浅では2代目企業経営者が町おこしを行っている。
- 駅前の錆びれ方がひどい。駅前に食事するところもない。行政が主体となることではあるが我々がもっと関与してまずは街の玄関口である駅周辺を賑やかにできないものか？

以上が主な意見である。意見の出し合いを行いながら情報交換を行った。多くの課題は行政と連携するべきものも多いが地域の代表もしくは有力者メンバーの揃うロータリークラブであればなんとかできるのではという前向きな意見も出つつ終了となった。

<後期IDMに2日間参加して>

会長エレクト 上野山栄作

会長として次年度は地域の課題に取り組みたい思いからIDMのテーマに「地域課題とロータリーの取り組み」とい

うような課題を出させていただいたところ、日頃から会員の皆さんは地域に根付き、地域のことをよく理解し、考えていることがわかる多数の意見を頂きました。その中でも、「青少年」と「箕島駅前周辺」というキーワードは興味深く、次年度に取り入れるべきだと考える次第です。来年度は有田RCの60周年の節目でもあります。心に残る一年になりますよう精進いたしますので、皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

閉会・点鐘 (成川(守)会長)

～米山奨学生 中国紹介授業～

平成30年2月22日（木）

箕島中学校において、米山奨学生の董涛君が、「文明が流れている」というテーマで、母国 中国の紹介授業を行いました。



生徒たちの前で授業を行う董涛君



成川会長から「ロータリー」について説明